



平成22年4月18日
川崎市立柿生中学校
柿生郷土史料館 情報・研究誌
第22号

— 柿生・岡上 鉄の系譜 VI —

川崎に残る「鉄の神」

川崎大師川原
金山神社

川崎区、川崎大師駅前にある若宮八幡宮は、大師河原地区の氏神さまですが、その境内に通称「かなまら様」と言われる金山神社が祭られています。

この金山神社は、鍛冶の神として鍛冶業の人々に信仰されてきたもので、江戸時代の「新編武蔵風土記稿」にも掲載されており、毎年11月8日に鞆(ふいご)祭が行なわれ、各製鉄会社からたくさんの奉納があります。

鞆祭の起源は、その昔、三条小鍛冶宗近という刀匠が刀を打つとき稲荷の神が出現して相槌を打ったということから、稲荷の神を祭ったのに始まるといわれています。祭りの際には道路にミカンをまいて子供たちに拾わせたそうです。江戸時代には各地のお稲荷様の祭礼でもミカンをまき、神楽をしたことが多かったそうです。このような、ミカンを供える風習は、元、野鍛冶(のかじ:屋外で簡単な方法で農具などを製作していた鍛冶屋)をされていた宮前区馬絹にお住まいの小泉松太郎氏のお宅にも伝わっておりミカンを膳に盛って仕事場に供えたそうです。

ミカンと鍛冶、あるいは鍛冶と稲荷との関係は、今のところよく分かっていませんが、何か密接な関係があるものと思われます。

つい先日、4月3日・4日(毎年、4月08日・日曜日)に川崎大師駅近くの金山神社で祭礼が行なわれ、多くの参拝者で賑わっていました。社の中では、御火取祭が行なわれ、神官が鞆(ふいご)を使いながら鍛冶の作業を神事として行なっていました。

一方、この神社の境内には、たくさんの鉄や石で出来た男性器が安置されており、神輿(みこし)のご神体も男性器をシンボライズしたものでした。どうも、全国的に鉄や鍛冶と男性器信仰は、セットのようです。

さて、柿生・岡上には現在このような神社こそ見当りませんが、その面影となるものは見られます。例えば、岡上神社の境内の小さな祠(ほくら)にある嘉永4年の銘がついた金勢大明神(こんせいだいみょうじん:お社に向かって左側。2体あるが右は水天宮、左が金勢様)がそうです。たぶん、鍛冶や鑪(たたら)に関する痕跡かもしれません。



(御火取祭の神事)



(左側の黒い六角形の建物が金山神社・右側が若宮神社)



(奉納される巫女舞)

—— 柿生・岡上地名考 I ——

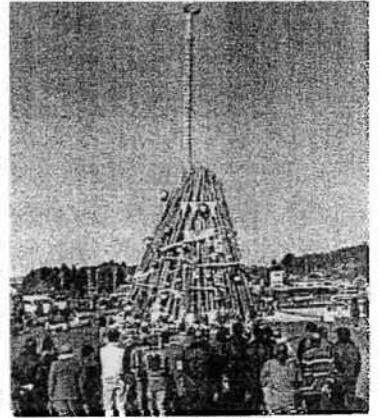
古き良き時代を偲ばせる早野

早野は麻生区の南端にあり横浜市緑区に接しています。早野の地名は、水不足で荒れた土地に稗(ひえ)が生えやすく「ひえの」が「はやの」になったのではないかと地元では言われています。

横浜上麻生道路を市ヶ尾方面から来て、早野の交差点を右に曲がると急に景色が開け、視界に広がる水田の緑色にたくさんの人が吾が故郷を思い出してしまいます。最近では、資材置場などができ、少し眺めは悪くなりました。

「早野」は現在の早野と虹ヶ丘1丁目～3丁目の大部分、横浜市緑区もみの木台の一部を含む広い地域を、かつては早野村といました。その後、明治22年に「柿生村大字早野」となり昭和14年川崎市へ編入されました。

早野には、九つの字(あご:町や村を小さな単位(分)は区画)があり、元禄15年の「武州小机領早野村検地水帳」にすべて記載されています。



(早野 どんど焼き)

下の字名が記された地図の「堺塚」「山田」の区域は、昭和48年区画整理が行なわれその際、横浜市側は「すすき野」、川崎市側は「虹ヶ丘」となりました。



(早野の九つの字)

「堺塚」は鉄(くろがね)村との境に塚を築いたことから付けられた地名で、毎年春秋の彼岸には、村中の人が出て、境界の塚が並ぶ尾根道の道普請をし、帰りには、塚の上に一畝ずつ土を盛って帰ったそうです。昔、この境界を築く時、盛り土が崩れても境界線がはっきりと解るように塚の下に木炭を入れたという言い伝えが村に残っているそうです。

また、「上ノ原」の横浜市境には、「鉄火の松」の碑があります。これは、昔、境界にある松の木の所有をめぐる隣の鉄村と争った時、両村の人が焼けた鉄の棒つかみあって決着を付けることになり、火傷をしなかった早野村のものになったという伝説のある松の碑です。また、この辺りは、見通しがよかったので見張りをするのに都合が良く、博打

(ばくち)をした場所とも言われています。

「上ノ原」といえば最近戒翁寺横で発掘が行なわれ、旧石器時代から江戸時代までの遺跡が出てきており、現在でも発掘調査が行なわれています。

この地域は、文禄3年(1594年)後北條の旧家臣であった富永主膳重吉の領地となりました。江戸時代は、ずうっと富永氏の知行地(幕府から与えられて廻する土地)でした。遺跡の発掘では江戸期と思われる道路跡も発見されました。きっと領主様もこの道を歩かれたのかもしれない。 参考文献:「川崎の町名」(日本地名研究所編)・「ふるさとを語る一柿生・岡上の歩み」



(富永重吉の墓)

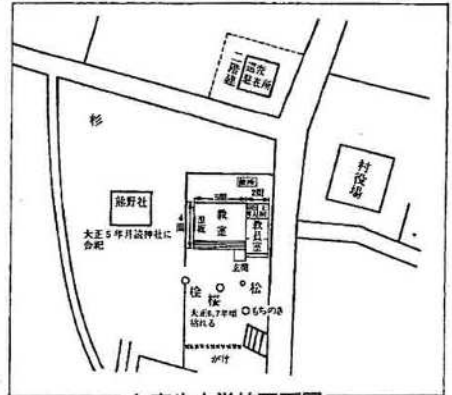
上麻生学校の白井錠次郎先生

旧、柿生小学校
創立当時の先生の姿

— 現、柿生中学校教育の森に碑 —

柿生中学校の校庭の横(現在の通路である階段を登り切った正面)に「白井錠次郎先生頌徳碑(しょうとくひ)」(白井錠次郎先生の功績をほめたえたる碑)と書かれた記念碑があります。

明治6・7年頃、上麻生では、上麻生学舎(現在の柿生小学校)として東林寺に開校されました。やがて明治16年頃上麻生村の所有地であった林を拓いて新校舎が建設されました。その場所が今の柿生駅前のサープラスのあるところです。場所的には、右の図からも分かるように村役場の目の前に位置しており、まさに柿生・岡上の中心地に建設されたわけです。



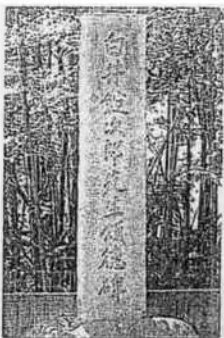
上麻生小学校平面図

下の「頌徳碑」に書かれているところによると白井錠次郎先生は明治15年(1882年)上麻生学校に勤務されたというわけですから開校の準備段階からこの学校に赴任され、以後40年間にわたり上麻生学校の教育に尽くされたようです。

明治29年生まれの子の池田万世さんは先生の思い出を「教え方は、まさに寺子屋式でした。先生は、《通勤するとき》帽子をかぶらず着流し(羽織・袴などの正式な服装でない気軽な服装)で下駄履きで、里芋の葉を頭に乘せておいでになる事もありました。教室に入ってから椅子に掛けてある袴(はかま)をはいて、黒板の脇に下げてある拍子木をとり、カチカチ鳴らすと授業の始まりです。冬は、1メートル四方の火鉢が一つ、役場から炭がくるのですが、それは返して近くの山で薪(たぎ)を取ってきてそれをトトロ口燃やすのです。みんな火鉢を囲み、先生の肩を叩いてお話をせがんだものでした。何事もつましく便所の下駄の鼻緒はすべて先生の手製でした。(中略)みんないい子に育てているので今考えますと学業はもとより人間としての基礎を仕込んでもらったことがさらに大きかったと思います。」と語っていらっしゃいます。

明治32年生まれの子の小島辰郎さんは、「今考えると恐い先生でもあり、実にやさしい暖かさのあふれる先生でもありました。1年生から4年生まで一教室で国語・算術・修身が主で他に習字がありました。勉強中先生は竹の根の鞭(むち)をもって廻られ怠けている者は首を叩かれる。しかしこの鞭は生徒たちに対する愛の鞭でありがたさがありました」と述べられています。白井先生の人間味あふれる姿がよく伝わってくるお話です。古き良い時代でもありました。

(参考文献「ふるさとを語る—柿生・岡上の歩み—」)



(白井錠次郎先生頌徳碑)

白井先生八南多摩郡福城村ノ人明治十五年職ヲ上麻生学校ニ奉シ爾來本村教育ノタメニ盡サレタルコト茲ニ四十年客秋文部省ヨリ其ノ功績ヲ選奨セラル旧職退隠セラルルニ當リ教ヲ受クル者相謀リ碑ヲ建テ永ク其ノ高徳ヲ傳ヘントス
大正十二年四月十五日

(頌徳碑原文)

大正十二年四月十五日

白井先生は南多摩郡福城村の人。明治十五年、職を上麻生学校に奉し、爾來本村教育のために尽くさるること茲に四十年。客秋文部省より其の功績を選奨せらる。旧職退隠せらるに當り、教を受ける者相謀り碑を建て、永く其の高徳を伝へんとす。

(頌徳碑ルビ振り)

大正十二年四月十五日

白井先生は南多摩郡福城村の人である。明治十五年に上麻生学校に勤め、その時からこの村の教育のために尽くされ、その期間は四十年にも及んだ。去年の秋、文部省からその功績を称えられた。また、昨年の十二月に引退なさることになったので、教えを受けた者が相談して、その徳が高いことをいつまでも伝えようと、石碑を建てることにした。

(頌徳碑現代語訳)

※村上昇平先生監修

— お知らせ —

第22回 **カルチャーセミナー**のご案内

古墳時代の柿生周辺の姿を探求する

- ◎日 時 4月28日(水) 18:00~
- ◎場 所 柿生中学校 視聴覚室
- ◎テーマ 「柿生周辺における古墳とその時代を探る」
- ◎講 師 **村田 文雄 氏**
 ・元、川崎市教育委員会 文化財課長
 ・元、川崎市 日本民家園長

◎校舎移転等のため第23回のカルチャーセミナーは8月下旬となります。

今後ともよろしく
お願いいたします。

◎「柿生文化」は麻生市民館・麻生図書館・市民館岡上分館・柿生連絡所・麻生図書館柿生分館にも置かせていただいておりますのでご利用ください。

郷土史料館「史料」の寄贈・寄託のお願い

今年、完成する本校の「郷土史料館」に収蔵する柿生・岡上に関する歴史的資料を探しています。ご自宅で保存されている史料(古文書や生活道具類)でお譲りいただけるものや、一時、お貸しいただけるものがございましたらお知らせください。しっかりとした管理体制で収蔵します。よろしくお願いいたします。

このような史料はありませんか

- ◎古代の「縄文土器・弥生土器」「石器」「土師器」「須恵器」
- ◎江戸時代の「検地帳」・「水帳」・「五人組帳」・地域の「絵地図」
- ◎江戸時代の「高札」(慶応4年の太政官布告「五榜の掲示」など)
- ◎江戸時代の寺子屋や私塾で使用した教科書・手本「各種往来物」
- ◎江戸時代の「藩札」「通行手形」
- ◎明治期発行の「地券」 ◎明治期の「自由民権運動」史料
- ◎明治・大正・昭和(戦前・戦中)の「国定教科書」・「新聞」
- ◎小型の農具「千歯こき」「備中鍬」「からさお」
- ◎各時代の「古銭」「生活古民具」(矢立て・印籠・火打ち・鏡・装束など)
- ◎その他各種史料「各種古文書類」「美術品」

寄贈・寄託していただける史料がありましたらご一報ください。

柿生中学校 044-988-0004 黒川まで

町内会・自治会を通してお願い文を配布したり、柿生郷土史料館設立準備委員が直接、地域をまわり、お願いにあがります。ご協力お願い致します。